

小室井野大学

だより

第3号

平成10年10月15日発行

雑大の運営に係わって

雑学大学は、公的機関から認定を受けた社会教育団体の一サークルです。

本学設置の動機は、地域に潜在する頭脳の発掘・起用と、さらに学習意欲に燃える人々に対して自由に学ぶことのできる機会の提供でした。

半年で延べ千名の受講生

開校から六か月。受講生は延べで約千名を数えました。集まる人々の評価は主旨好評のようです。人間と学習との関係は古くから人類の発展過程で欠かせなかったことなども回顧しながら、今更のようにな生涯学習時代の片鱗を見るように感に入っている次第です。かつて社会教育施設の事務事業にたずさわって、今本学に係わる視点から、行政のそれと雑大との概要で気づいているままを書いてみます。

社会教育で住民が成長

雑学大学はその運営上必要なルールは設けていますが、企画・実施にあたっては気負うものではありません。公的な教育施設のように法律や法に基づく設置要件などに定められた目的・事業等の義務規定は持ちません。地域住民の教育的レベルの向上効果を上げる役割についても、あくまでサークルの裁量による努力目標であります。当然のことながら、公費支援も受けていません。自己満足の活動ではという批判があれば否定はいたしません。むしろ半世紀に及ぶ公的社会教育が営々と続けられてきた成果で、私たちが育ち、地域を動かす力が与えられた結果とみていただく方が的を得ているかもしれません。

間もなく二十一世紀が開かれようとしています。その社会は生涯学習社会の実現と言われます。それにしても、例えば公民館は、集

まる・学ぶ・つながる機能を持つ機関であり、法に裏づけられた社会教育の拠点です。昨今、民間の教育機関やサークルが魅力ある学習事業を推進しているからとか、住民の手によって学習行動への媒体を果たしているから、最早社会教育施設は無用と主張する声もなくはありませんが、そうした意見には慎重でありたく思います。学習サークルは学習者を地域の活性化の担い手に育成するとかの責任を負っていないのです。それぞれの役割・特性を生かした活動があつて良いと思います。

今後の雑大の運営には

これからの雑大については、なお必要な学習課題を意識してカリキュラムの編成ができる実力を培い、合わせて学習者の要求課題をも適格に捉えられるよう努めることが不可欠なことと思います。継続する間に、私どもも学習しつつ、様々な条件がプラスに付加するような状況となれば、より高まる展開も期待されはしないかなど思考しています。

第九回講義

八月二日

『清少納言と宮廷生活』

教授 後藤春海氏

「春は曙」で始まる枕草子は一千年前に書かれた随筆です。平安京の宮中生活を描いた文章が大部分なのですが、感覚的に現代に通じるものが多く人はいつの時代も変わらないものと知らされます。

牛車で外出した折の風景描写やエピソードは、私たちがドライブの際に経験することと同じであり、焦って縫い物をする時の失敗は、誰でもしてしまうものだと妙に安心したり、また「可愛いもの」「恐ろしいもの」づくしなど共感する人が多いでしょう。

作者の清少納言は、受領階級という下級貴族で、和歌と漢学に優れた清原家に生れました。彼女の才知を耳にした関白藤原道隆に招かれ二十八歳で宮中に出仕しました。

一条天皇の中宮（皇后）定子付きの女房（お相手役）としてです。美しく、聡明な十歳年下の女主人に八年間仕えました。その間教養があり機知に富む清少納言は、天皇・中宮に愛され仲間の女

房達と共に打ち解け、訪ねて来る男性貴族とも対等に応酬して、充実した生活を送っていました。

この時代は日本の歴史の中で女流文学者が数多く生まれた特異な時代です。藤原氏の名家が争って娘を后として宮中に送り込み、帝の寵を競う後宮から日本独自の文化が産まれました。女手という「ひらかな」和歌、物語、日記、書、絵画、衣服、お香などです。中でも随筆という文学の新しいジャンルを創った清少納言はユニークな個性の持ち主と言えます。鋭い観察眼を備え、的確な描写を行なう彼女の作品によって今日私達は平安時代の宮廷生活のありのま

まを知ることができるのです。主人の定子は、叔父道長の娘彰子に中宮の座を奪われ、失意のうちに二十四歳で亡くなりました。清少納言は間もなく退出し、晩年はひっそりと暮らしたという伝説があります。

華やかな生活を回想して綴った枕草子は「をかし」という語を多く用い、定子のすばらしさを賛美し、京の四季と貴族社会を明るく描いています。けれどもその裏には深い愛惜の情が漂っています。

第十回講義

八月十六日

『京都会議以後の企業の環境への取り組み』

教授 長沢光男氏

地球温暖化を防ぐ具体策を話し合う気候変動枠組条約締約国会議（COP3）が去年の十二月一日から京都で開かれました。十日までの会期が、もめにもめて、議定書が採択されたのは十一日の午後でした。

温室効果ガスの排出を二〇〇八年から二〇一二年までの間に一九九〇年比で少なくとも五%削減する。日本は六%、アメリカが七%、EUは八%削減で、対象とするガスは二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、HFC、PFC、SF₆の六種類と決まりました。

このほか、排出量取引、共同実施、それに途上国の排出削減に協力するクリーン開発メカニズムの実施も決まりました。細部は今後の話し合いで詰めることにしています。COP4は十一月二日から十三日までブエノスアイレスで開かれます。

これを受けて政府は省エネ法の

改正案を国会に提出しました。この特徴は「トップランナー方式」を採用したこと。また、政府の地球温暖化対策推進本部は六月十九日に地球温暖化対策推進大綱を発表しました。需要面では自動車の燃費基準の強化など、供給面では二〇一〇年度において原子力発電を九七年度の五割増とするなどを掲げています。

企業も対応に追われています。電力は原子力の設備利用率を高める。エコ・アイスなど、利用効率の向上。鉄道は車両の軽量化と省エネ、自家発電の高効率化。鉄鋼はコークスの代わりに廃プラを使うなど。

ビジネスチャンスととらえる企業も増えています。例えば、ハイブリット自動車などです。オイルショックで省エネ技術が進んだように、温暖化防止で技術が進歩すると予想されます。

環境意識の高まりで環境ISO（ISO14000シリーズ）の認証を取得する企業も増えています。すでに国内で一千件を越え、英独を抜いて世界のトップになっています。

第十一回講義 九月六日

『子供たちの健やかな成長を願って―地域・学校・家庭のはたす役割―』

教授 平林忠氏

子供の生活が変わってきて、テレビは一部屋に一台の時代になり、一人で機械を相手に遊ぶために、他人の気持ちを配慮しない、我慢ができない子供をつくった。さらに親自身も周りに気配りができなくなっている。塾にいく子も多く子供は疲れている。しかも食生活の問題も多く、朝食ぬきの子供もいて、学校給食を頼っているが、弁当に比べ給食は学校での遊び時間を少なくしている。

どう改革していったらいいのか、それも教育である。自然から学ぶことも大事であり、小金井市では移動教室で蓼科へ行く。自然の厳しさも体験させる。しかし、教員も自然を知らないのが現実である。

今の子供のいじめは自分が楽しければいいというもの。少年院の報告によると集団での非行が少なくなり、これからは個人的な、欲

望の発散のような、衝動的爆発的な非行が予想される。しかし、人間が個で生きることが不可能である。昔は地域が集団教育をして社会性を育ててくれたが、これからは集団生活は学校でしか教えられない。成績の良さよりも生きる力が大事であり、子供への体験学習が必要である。二中では現在二年生を対象に進路指導改善指導の実施校として、職業体験をしている。

体験することで子供の目つきが生きてきて、授業にも効果が上がっている。平成十四年から小中学校とも教育課程が変わり、総合科の中で取り入れていくが、先生たちも体験不足で、教師が変わらないとだめである。これからは教師も色々な体験を積み、非行に走る子供の気持ちがかかる教師が必要な時代になる。

子供の個性特性を見分け、伸ばしてやるのが大事で、個性を知るところは良い刺激が必要である。良」とが地域と家庭と学校の役割である。

どんな方法で物事を教えたら良いのか、教育に方程式はない。

第十二回講義 九月二十日

『数字で表した名字の話』

教授 天野巡一氏

お断りしておきますが、私は名字に關しての専門家ではありません。私は以前、市役所に勤務していました。市役所で住民票や印鑑証明などの受付窓口で、仕事を通して蒐集したおもしろい名字の話をしてみたいと思います。

名字にはいろいろありますが、全国でどのような名字が多いのかと言いますと、ある生命会社の調査によりますと、第一位は「佐藤」さん、第二位以下は「鈴木」「高橋」「田中」「渡辺」「伊藤」「小林」「中村」「山本」「加藤」さんの順になります。

それでは数字で表したいいくつかの名字を上げてみますが、皆さんはこのうちいくつ読めますか。

まず、『一寸(ちよつき)』さん、『一尺八寸(かまかつ)』さん、『一口(いもあらひ)』さんがありますが、数字の『一』だけの名字もあります。数字の1は2の前にありますから、『一のまえ』さんになります。『二合半(こな

から)』さんは四半分という意味です。『三丁目』さんと住所が名字になっている方もいます。『四月一日(わたぬき)』さんもあります。旧暦の四月一日は五月二日ごろです。この頃になると綿入れの着物は暑くて着ていられませんね。

そのほか、『五十公野(いずみの)』さんもあります。『六人(むとり)』さん、『七種(さいぐさ)』さん、『七擲(ななからげ)』さん、『八鳥(はとり)』さん、『八十八間(はとやま)』さんもあります。また、『九石(さざれいし)』さん、『九』さんがいますが、九の字、一字で「いちじく」と読み、「い」を発音せずに「ちじく」さんもあります。極めつけの名字として『十』さんがいますが、読めますか。漢数字の「十」は見てお分かりのとおり縦と横の線からできています。「たてよこ」さんになります。

そのほかおもしろい名字はもつとありますが、皆さんも名字に限らず、身のまわりのものを題材に蒐集などすると毎日楽しい時間を過ごせると思いますが、いかがでしょうか。

今後のカリキュラム

10月18日「山と文学ー多摩・秩父の山歩きと不思議物語」

竹村鏡郎氏（東久留米語らい会主宰）

11月 1日「北京の庶民生活」

吉武百合氏（中国語通訳）

11月15日「オバQ、おそ松君の誕生」

たみお道雄氏（元「少年サンデー」編集長）

12月 6日「海外旅行でスケッチする」

永沢まこと氏（イラストレーター）

12月20日「河川の生物と自然保護ーホタル、アユ、貝類の生活史から考える」

西脇三郎氏（筑波大学医療技術短期大学名誉教授）

平成11年

1月17日「世紀末ウィーン文化とユダヤ人」 村山雅人氏（國學院大学教授）

2月 7日「草食の思想ー日本人の特性を考える」 國米家己三氏（元産経新聞記者）

2月21日「苗字からルーツ・先祖を探る」 野中富雄氏（日本家系図学会理事）

- ・教室は小金井工業高校会議室。時間は午後2時～4時です。
- ・スリッパをご持参下さい。
- ・参加費は無料。出席はいつでも自由です。ご都合に合わせてご参加下さい。
- ・前の講義の資料がほしい方は、残っている場合がありますから、申し出て下さい。

雑学大学設立の趣旨をより身近なものにしようと、
受講者同志と事務局のふれあい・交流の場づくりを
検討中です。ご意見をお寄せ下さい。



編集後記

○今、まさに秋たけなわ…大変過
しやすく活動しやすい季節となりま
した。趣味・自主学習に、ハイキン
グ・軽いスポーツに、或は地域行事
活動にと、それぞれにお励みのこと
とご拝察致しております。

○お陰様で、当雑学大学も、早半年
（十三回の講義）と順調な進捗を経
ております。特に最近では、講義終
了後、忌憚のない質問が活発に出る
など、教授と受講者が一体となっ
た、誠に良い雰囲気ができつつあ
り、喜ばしい限りです。受講されて
おられる方々の熱意が伝わってくる
ようです。

○どうぞ、今後とも近隣・お知り合
いの方々お誘い合わせ下さり、より
広く・より多くの方々共々一層充実
した心豊かな地域社会作りのために
邁進して参りたいと期待しておりま
す。ご一緒に頑張りましょう。

（内藤記）

発行責任者 五十嵐京子
小金井市本町

☎ & FAX

（夜間）